

## 会 報

### 平成11年度第3回日本公衆衛生学会理事会議事録

- I 日 時 平成11年8月31日(火)15:00~17:00  
 II 場 所 東京厚生年金会館 雅1  
 III 出席者 学会長 小澤秀樹  
 理事長 重松峻夫  
 理 事 岩田弘敏, 小倉敬一,  
 金川克子, 北川定謙,  
 多田羅浩三, 伊達ちぐさ,  
 竹本泰一郎, 角田文男,  
 野崎貞彦, 能勢隆之,  
 松田 朗, 簗輪眞澄,  
 宮武光吉 (15名)  
 監 事 高石昌弘, 平山朝子 (2名)

#### 委任状提出者

- 副会長 吉川 暉, 安倍一郎, 秋吉豊利  
 理 事 岩尾總一郎, 尾嵩新平, 近藤健文,  
 嶋本 喬, 古市圭治, 三浦宜彦,  
 吉田哲彦, 柳川 洋 (11名)

以上 現在理事数26名, 出席理事15名, 委任状提出理事11名

オブザーバー 次期学会長 鈴木庄亮

学会規定12条1項による定数に達したので, 重松理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち理事長から挨拶があった。

#### 議事録署名人選出

議事録署名人に, 角田文男, 金川克子両理事が指名された。

#### 議 事

##### 第1号議案 第58回(平成11年度)日本公衆衛生学会総会について

小澤学会長から学会機関誌46巻8号に掲載の資料に基づき, 説明があり, 自由集会の世話人, 内容について質問があったが, 総会事務局においてすべて把握していないので, 内容の分からないものについては世話人に問い合わせ確認することとした。自由集会の開催要件などについては, 従来どおりとすることとし, 本議案は了承された。

##### 第2号議案 第59回(平成12年度)日本公衆衛生学会総会について

鈴木次期学会長から次のとおり説明があった。

- 群馬県, 前橋・高崎市及び「グリーンドーム前

橋」の状況について詳細な説明があった。

- 一般演題はすべて示説発表とし, ドームの3, 4階のコンコースを使用する。シンポジウムなどのテーマ, 座長, 演者等については県関係者の希望を調査し, リストを作成した。
  - 宿泊・交通機関の子約斡旋業務の委託先は「近畿日本ツーリスト」に内定した。
- 以上により, 本議案は了承された。

##### 第3号議案 第60回(平成13年度)日本公衆衛生学会総会について

重松理事長から第60回総会について, 学会長は香川医科大学の實成文彦教授にお願いし, 香川県高松市で実施する予定で現在交渉中である旨説明があり, 了承された。

本議案は明日開催の新理事会に報告し, 評議員会(10月19日開催)に諮ることとした。

##### 第4号議案 新理事会への引継事項について

重松理事長から新理事会への引継事項は次の事項とすることを確認し, 明日開催の理事会に報告することとした。

1. 平成10年度事業報告, 収支決算(案)について
2. 平成11年度収支補正予算(案)について
3. 平成12年度事業計画, 収支予算(案)について
4. 奨励賞について
5. 名誉会員について

#### 報告事項

##### 1. 委員会報告

###### 1) 編集委員会報告

金川編集担当理事から次のとおり報告があった。

• 「衛生学・公衆衛生学用語集」の編集は, 衛生学公衆衛生学教育協議会において作業がすすめられており, 今秋の学会総会開催時の協議会には最終原稿が配布される予定である。

• 7月の編集委員会の後, 科学技術振興事業団から編集の電子化について説明を受けた。学会の本来の運営にも関係することなので理事会の承諾なしには検討を進められないが, 委員会としては, できるものから電子化していきたいという意向を持っている。明日の理事会で, 事業団の方に説明とデモンストレーションを行っていただく予定である。

・中村委員長の任期が今年12月末までとなっているため、次期編集長については、関東周辺の方である専門分野に偏重していない方、また、年齢、リーダーシップ等のことも考慮に入れ、理事長、担当理事、中村編集長等と検討した結果、以前編集委員を務められた経験のある東海大学医学部地域保健学部門教授の岡崎勲先生にお願いした旨、明日の理事会に諮りたい。

## 2) 地域保健と人材委員会報告

近藤委員長欠席のため野崎庶務担当理事から次のとおり報告があった。

第3回委員会を8月6日に行い、国立公衆衛生院の専門課程前期カリキュラムを終了した方から意見を伺った。次回委員会は10月8日の子定である。

## 2. 選挙管理委員会報告

小澤委員長から理事・理事長選挙の投票状況と当選人について報告があった。投票率は非常に高く、理事選は96%、理事長選は95%であった。新役員については学会機関誌46巻9号に掲載する。

また、重松理事長から学会規定と役員選出に関する規定の見直しについて、新理事会において検討して欲しい旨、要望があった。

## 3. 平成12年度科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について

近藤理事欠席のため野崎庶務担当理事から次のとおり報告があった。

今年度の審査委員候補者の推薦については、新評議員の中で該当する方から、年齢、専門分野、これまでに他学会からの推薦による審査委員としての経験の有無、今回他学会からの推薦で候補者になっているか等のこと、を検討し、第1段については衛生学2名、公衆衛生学4名、医療社会学5名、第2段社会学2名を選び、本人の了解を得て、日本学術会議に提出した。

## 4. 次回理事会

明日9月1日10時から東京厚生年金会館で行う。

以上で議事を終了し、重松理事長が閉会を宣した。

## 平成11年度第4回日本公衆衛生学会理事会議事録

I 日時 平成11年9月1日(水)10:00~12:00

II 場所 東京厚生年金会館 雅1

III 出席者 学会長 小澤秀樹

理事長 多田羅浩三

理事 小倉敬一、金川克子、  
北川定謙、木根潤英雄、  
佐柳進、伊達ちぐさ、  
角田文男、鳥山皓、  
能勢隆之、二塚信、  
松田朗、宮武光吉(14名)

監事 高石昌弘、平山朝子(2名)

### 委任状提出者

副会長 吉川暉、安倍一郎、秋吉豊利

理事 阿彦忠之、相澤好治、岩尾總一郎、  
小林廉毅、小林秀資、後藤武、  
近藤健文、嶋本喬、田中平三、  
中川秀昭、三浦宜彦(14名)

以上 現在理事数28名、出席理事14名、委任状提出理事14名

オブザーバー 次期学会長 鈴木庄亮

前理事長 重松峻夫

学会規定12条1項による定数に達したので、多田羅理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち多田羅新理事長から挨拶があった。又、重松峻夫前理事長から新理事会への引継を含めた挨拶があった。

### 議事録署名人選出

議事録署名人に、松田朗、金川克子両理事が指名された。

### 議事

#### 第1号議案 第58回(平成11年度)日本公衆衛生学会総会について

小澤学会長から学会機関誌46巻8号に掲載の資料に基づき説明があった後、本議案は了承された。

#### 第2号議案 第59回(平成12年度)日本公衆衛生学会総会について

鈴木次期学会長から自己紹介の後、次のとおり説明があり、本議案は了承された。

・群馬県および前橋・高崎市について「グリーンドーム前橋」の状況について詳細な説明があった。

・一般演題はすべて示説発表とし、ドームの3、4階のコンコースを使用する。シンポジウムなどのテーマ、座長、演者等については県関係者の希望を調査し、リストを作成した。

・宿泊・交通機関の予約斡旋業務の委託先は「近畿日本ツーリスト」に内定した。

### 第3号議案 第60回(平成13年度)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から学会長候補者の選定方法に関する申し合わせ事項についての説明とこれまでの経過報告があった後、第60回総会について、学会長は香川医科大学の實成教授にお願いし香川県高松市で実施する予定で現在交渉中である旨説明があり、了承された。

以上により、本議案は評議員会に諮り、総会に報告することとした。

### 第4号議案 新体制の役割分担について

多田羅理事長から指名理事については次の方をお願いし、本人の了承を得た旨、説明があった。

#### 指名理事

佐柳 進氏 厚生省保健医療局地域保健・健康増進栄養課

小林秀資氏 国立公衆衛生院

後藤 武氏 兵庫県健康福祉部

小倉敬一氏 千葉県船橋保健所

田中平三氏 東京医科歯科大学難治疾患研究所

相澤好治氏 北里大学医学部衛生学

また、役割分担については、次のとおり提案がありました。

理事長代行 能勢理事

庶務担当 近藤理事、金川理事

会計担当 宮武理事、松田理事

編集担当 嶋本理事、金川理事、三浦理事

名誉会員の推薦 北川理事、田中理事

日本医学会評議員 角田理事

日本医学会連絡委員 近藤理事

日本医学会用語委員会委員 嶋本理事

日本学術会議担当 相澤理事

#### 委員長

編集委員会 中村健一委員長

地域保健と人材委員会 近藤健文委員長

感染症対策委員会 角田文男委員長

地域保健と人材委員会については、地域保健委員会と人材委員会の2委員会に分ける案があるが、

10月8日開催の地域保健と人材委員会の終了後、改めて、近藤委員長を交えて検討することとした。また、環境保健委員会を新たに設置する案もあり、この件についても10月の理事会までに検討することとした。

### 第5号議案 旧理事会からの引継事項について

金川理事から平成10年度事業報告(案)、平成12年度事業計画(案)について、宮武理事から平成10年度収支決算(案)、平成11年度収支補正予算(案)、平成12年度収支予算(案)について、小澤委員長から奨励賞について、北川理事から名誉会員について説明があった。

平成12年度事業計画(案)については、新委員会を発足する案もあるため、決定次第、事業計画案を修正することとし、それに伴う予算については、今後検討することとした。

委員会の費用について、委員会別にそれぞれ予算を計上して欲しい旨、要望があった。

奨励賞については、研究者だけではなく公衆衛生活動を中心に行っている会員からも応募が多くなるよう、PRを工夫すべきであるとの要望があった。

以上、本議案は了承され、10月の評議員会に諮ることとした。

また、金川編集担当理事から中村委員長の任期は本年12月末までとなっているので、次期編集委員長については、関東周辺の先生で、ある専門分野のみに偏重しておらず、かつ、年齢、リーダーシップ等の諸点を考慮に入れ、理事長、担当理事、中村編集長等で検討を行った。また、中村編集委員長から多田羅理事長宛には、以前編集委員を務められた経験のある東海大学医学部地域保健学部門教授の岡崎勲先生にお願いしたい旨、推薦状が届けられていることなどもあり、総合的に検討を行った結果、編集委員長は岡崎勲先生にお願いすることが了承された。また、編集委員の任期についても本年12月末となっているので、新編集委員長のもとで、新編集委員の候補者を10月開催の理事会までに選考することにしたい旨説明があり、了承された。

#### 報告事項

##### 1. 委員会報告

##### 1) 編集委員会報告

金川理事から次のとおり報告があった。

・「衛生学・公衆衛生学用語集」の編集は、衛生学公衆衛生学教育協議会においてすすめられており、今秋の学会総会開催時の協議会には最終原稿が配布される予定である。

・編集の電子化について科学技術振興事業団から、本日理事会終了後、説明とデモンストレーションを実施する予定である。今後この件については、編集委員会、会誌検討委員会において検討し、理事会に諮ることとした。

・現行の規定では編集担当理事と編集委員長の職務分担、委員長任期、副委員長、委員会の業務、編集委員と査読委員の役割分担、小委員会などについて規定がないので、今後検討して欲しい。

## 2) 地域保健と人材委員会報告

近藤委員長欠席のため金川理事から報告があった。

第3回委員会を8月6日に行い、国立公衆衛生院の専門課程前期カリキュラムを終了した方から意見を伺った。次回委員会は10月8日の予定であ

る。

## 2. 平成12年度科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について

近藤理事欠席のため金川理事から報告があった。

今年度の審査委員候補者の推薦については、新評議員の中で該当する方から、年齢、専門分野、これまでに他学会からの推薦による審査委員としての経験の有無、今回他学会からの推薦で候補者になっているか等のことを検討し、第1段については衛生学2名、公衆衛生学4名、医療社会学5名、第2段社会医学2名を選び、本人の了解を得て、日本学術会議に提出した。

## 3. 次回理事会

10月19日(火)11時から大分県別府市ビーコンプラザで行う。

以上で議事を終了し、多田羅理事長が閉会を宣した。

この後、編集の電子化についてのデモンストレーションがあり、質疑応答が行われた。

**日本公衆衛生雑誌投稿規定**

(平成10年4月1日から実施)

変更は下線部分

1. 本誌への投稿は共著者も含めて本学会会員であることを原則とする。
2. 他誌に発表された原稿(予定も含む)の投稿は認めない。
3. 本誌は原則として投稿原稿およびその他によって構成される。
  - 1) 投稿原稿の種類とその内容は表1のとおりとする。

表1 投稿原稿の種類

種類	内容	制限頁数
1. 論壇 Sounding Board	公衆衛生の活動、政策、動向などについての提案・提言	5頁
2. 総説 Review Article	研究・調査論文の総括および解説	12頁
3. 原著 Original Article	独創的な研究論文および科学的な観察	10頁
4. 短報 Short Communication	独創的な研究の短報または手法の改良・提起に関する論文	5頁
5. 公衆衛生活動報告 Public Health Report	公衆衛生活動に関する実践報告	10頁
6. 資料 Information	公衆衛生上有用な資料	10頁
7. 会員の声 Letter	掲載論文に対する意見、海外事情、関連学術集会の報告など	1頁

(刷上り1頁は400字詰原稿用紙のほぼ4枚に相当する)

本誌には上記のほか編集委員会が認めたものを掲載する。

- 2) 投稿原稿のうち、3~6の構成は原則として表2のとおりとする。  
(表2の構成によらない場合は投稿の際その理由を付すこと)
4. 会員の投稿には連絡通信事務費(投稿料)および掲載料を必要とする(会員の声を除く)。投稿料はその実費が上回った場合は、追加請求することがある。投稿料および掲載料は理事会の議を経て変更することがある。
  - 1) 投稿の際には、連絡通信事務費(投稿料)を原稿送付と同時に振替口座00110-8-129419(日本公衆衛生学会)に納入のこと。

表2 投稿原稿の構成

項目	準ずる項目	内容
抄録	要旨、まとめ	目的・方法・成績・結論にわけて、見出しをつけて記載すること。(1,000字以内)
キーワード		(6個以内)
I 緒言	はじめに、まえがき	研究の背景・目的
II 研究方法	方法と対象・材料等	研究・調査・実験・解析に関する手法の記述および資料・材料の集め方
III 研究結果	研究成績	研究等の結果・成績
IV 考察	考察	結果の考察・評価
V 結論	おわりに、あとがき	結論(省略も可)
文献		文献の記載は6.10)に従う

- 2) 投稿原稿が掲載された場合、当該原稿の制限頁数の頁作成に要する費用の30%を学会が負担する。その他、図の作成に要する費用および別刷代は著者負担とする。
5. 編集委員会は投稿原稿について修正を求めることがある。修正を求められた原稿はできるだけ速やかに再投稿すること。返送の日より6か月以上経過して再投稿されたものは、新投稿として扱うことがある。なお、返送から6か月以上経過しても連絡がない場合は、投稿とり下げとみなし原稿を処分することがある。  
編集委員会で修正を求められ再投稿する場合は、指摘された事項に対応する回答を別に付記するものとする。
6. 投稿原稿の執筆要領
  - 1) なるべくワープロ使用が望ましい。B5判又はA4判の用紙に、横書きで25字×16行又は25字×32行(32字×25行でもよい)で印字する。数字及び英字は原則として半角とする。  
手書きの場合は、B5判又はA4判400字詰横書き原稿用紙を使用する。数字及び英字は原則として1マスに2字とする。
  - 2) 新かなづかいを用い、できるだけ簡潔に記述する。誤字やあて字が多く、日本文として理解が困難な場合は返却することがある。
  - 3) 投稿原稿は原則として日本文とする。外国語の原稿を投稿する場合は事務局に問い合わせること。ただし、図、表および写真の説明は英文で記載してもよい。
  - 4) 数字は算用数字を用い、単位や符号は慣用のものを用いる。

- 5) 特殊な、あるいは特定分野のみで用いられている単位、符号、略号ならびに表現には必ず簡単な説明を加えること。
- 6) 外来語は片かなで書く。外国人名や適当な日本語訳のない術語などは原綴を用いる。手書きの場合ローマ字は活字体(なるべくタイプ)を用い、イタリック体で記述する場合はアンダーラインで示す。
- 7) 図、表および写真には図1、表1および写真1などの番号をつけ本文とは別にまとめておき、原稿の欄外にそれぞれの挿入希望位置を指定する。

図は原則としてそのまま掲載できる明瞭なものとする。

- 8) 原稿には表紙を付し、上半分には表題、希望する原稿の種類、印刷必要部数、原稿枚数、図表および写真の枚数を書き、キーワードを記す。下半分には、著者名、所属機関名、編集委員会への連絡事項および連絡者の氏名および連絡先(所属機関、所在地、電話、ファクシミリ)などを付記する(2枚にわたってもよい)。

異なる機関に属する者の共著である場合は、各所属機関に番号をつけて氏名欄の下に一括して示し、その番号を対応する著者の氏名の右肩に記す。

別に英文表紙をつけ、表題、著者名、所属機関名、キーワードを記す。

- 9) 原稿には400語以内の英文抄録をつけること。ただし、論壇、公衆衛生活動報告、資料、会員の声については、これを省略することができる。英文抄録の構成は和文抄録(表2)に準じタイプ(ダブルスペース)し、専門家によるチェックを受けること。

10) 文献の記載様式

- (1) 文献は本文の引用箇所の肩に<sup>1)</sup>, <sup>1~5)</sup>, <sup>1,3~5)</sup>などの番号で示し、本文の最後に一括して引用番号順に記載する。文献の著者が3人までは全員、4人以上の場合は3人目までを挙げ、4人目以降は省略して~、他とする。

- (2) 雑誌名は原則として省略しないこととする。その雑誌が使用している略名がある場合は使用してもよい。

- (3) 記載方法は下記の例に従う。

① 雑誌の場合

著者名. 表題. 雑誌名 発行年(西暦); 巻: 頁-頁.

- 1) 寺尾敦史, 小西正光, 馬場俊六, 他. 都市の一般住民におけるたばこ煙暴露状況喫煙の生

化学的指標を用いた分析. 日本公衛誌 1995; 45: 3-14.

- 2) Browson RC, Chang JC, Davis JR. Occupation, smoking, and alcohol in the epidemiology of bladder cancer. Am J Public Health 1987; 77: 1298-1300.

② 単行本の場合

著者名. 表題. 編者名. 書名. 発行所所在地: 発行所, 発行年(西暦); 頁-頁.

- 3) 古野純典. 5つのがんの記述疫学的特徴. 廣畑富雄, 編. がんとライフスタイル. 東京: 日本公衆衛生協会, 1992; 21-43.

- 4) Rothman KJ. Modern Epidemiology. Boston: Brown and Co, 1986; 56-57.

- ③ 原則として、特殊な報告書、投稿中原稿、私信などで一般的に入手不可能な資料は文献としての引用を差し控える。

- 7. 投稿原稿は本文、図、表、写真、抄録などもすべて正1部、副2部を送付する。副本は複写でもよい。できればフロッピーディスク(3.5インチフォーマット形式を明示)を同封すること。

- 8. 投稿原稿送付の際は封筒の表に「日本公衆衛生雑誌原稿」と朱書きし、下記に簡易書留で郵送する。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8

日本公衆衛生学会

日本公衆衛生雑誌編集委員会

- 9. 投稿原稿の採否は編集委員会で審議し決定する。掲載原稿の著作権は本学会に帰属する。
- 10. 初校は著者が原稿の控えを用いて行う。校正の際の加筆は認めない。
- 11. その他、本規定に関する問い合わせは事務局へ。

〈投稿料〉 5,000円

〈掲載料〉・1頁 7,500円

・図の作成に要する費用 実費

別 冊 価 格 表

頁	部数								
	30	50	100	150	200	250	300	350	400
1~4	2,800	3,020	4,450	5,410	6,350	7,280	8,200	9,370	10,540
5~8	3,720	4,000	5,980	7,020	8,100	9,160	10,200	11,570	12,900
9~12	4,600	5,000	7,470	8,710	9,900	11,100	12,260	14,050	15,800
13~16	5,580	6,040	9,320	10,320	11,630	12,950	14,250	16,210	18,160
17~20	6,500	7,020	10,800	12,350	13,890	15,400	16,900	19,150	21,400

500部以上は別途計算になりますので、事務局にお問合わせください。

# 日本医学会だより

JAMS News

1999年10月 No. 22

日本医学会

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16  
日本医師会館内 TEL 03-3946-2121(代)

## 第 25, 26 回日本医学会総会

1999年4月2日～4日に東京で第25回日本医学会総会が開催され、盛会裡に終了した。

第26回日本医学会総会は、4年後の2003年、4月4日～6日に福岡での開催を予定している。

会頭に杉岡洋一九州大学総長、副会頭に平野実久留米大学学長ならびに片山仁順天堂大学学長、準備委員長に名和田新九州大学医学部教授、幹事長に高柳涼一九州大学医学部講師がそれぞれ決定している。

近々、準備委員会が開催され、総会にむけての組織化が具体的に行われる予定である。

## 日本医学会総会百年のあゆみ

第25回日本医学会総会記録委員会が、「日本医学会総会百年のあゆみ」を、単行本として刊行した。日本医学会総会の前史に始まり、第1回総会からの歴史を丹念に調べたもので、編集にあたった執筆者の姿勢は記録性を第一とし、資料としては総会の会務記録に限った。また詳細な年譜作製を試みたとしている。

総会登録者には既に第25回総会の資料として配布したが、多少の残部が日本医学会にある。入手希望の方は、送料の切手340円を添えて日本医学会まで申し込まれたい。無料頒布。

## 第 114 回日本医学会シンポジウム

1999年9月3日～5日、パレスホテル箱根においてクローズド形式のシンポジウム「血管障害—発症機序の解明から治療まで—」を開催した。組織委員は、石川春律(群馬大・解剖)、秦順一(慶應大・病理)、矢崎義雄(国立国際医療センター)の各氏であった。

プログラムは、I. 血管壁と生理活性物質, II. 血管細胞の機能と病態, III. 血管病の分子遺伝学, IV. 血管治療の新しい展開, とそれぞれ題した4セッションから構成された。

血管の機能異常および病態が、昨今、分子・遺伝子レベルで明らかにされつつある現状を踏まえ、血管障害に際しての組織変化に関する最近の研究結果が発表された。またそれに基づいた治療法が論じられ、熱心に討議された。

シンポジウムの詳細は、記録集として2000年2月頃に刊行予定である。希望者は日本医学会宛、郵便はがきで申し込まれたい(無料)。

## 第 115 回日本医学会シンポジウム

平成11年12月2日(木)10:00～17:00, 日本医師会館において「神経筋難病のupdate」をテーマにシンポジウムが開催される。組織委員は、廣川信隆、水野美邦、金澤一郎の各氏。参加希望者は、日本医学会に郵便はがきで申し込まれたい。参加費無料。

プログラムの概要は下記のとおり。

**I. パーキンソン病をめぐって**

1. パーキンソン病と遺伝子/水野美邦 (順天堂大・脳神経内科)
2. パーキンソン病の薬物療法/近藤智善 (和歌山県医大・神経内科)
3. パーキンソン病の外科的治療/横地房子 (東京都立神経病院・神経内科)

**II. アルツハイマー病をめぐって**

4. アルツハイマー病の病態—アミロイドβ蛋白を中心に—/柳澤勝彦 (国立長寿医療研究センター・痴呆疾患研究部)
5. 家族性アルツハイマー病とプレセニリン/岩坪 威 (東京大・臨床薬学)
6. アルツハイマー病とτ蛋白/井原康夫 (東京大・神経病理学)

**III. 神経筋難病をめぐって**

7. 脊髄小脳変性症/金澤一郎 (東京大・神経内科)
8. 多発性硬化症/山村隆 (国立精神・神経センター神経研・免疫研究部)
9. 筋ジストロフィー/荒畑喜一 (国立精神・神経センター神経研・疾病研究第1部)

は下記の方々に決定した。

**〈日本医師会医学賞〉**

- ・MHCによる免疫応答, 免疫システム枠組み, および免疫疾患の制御機構に関する研究/笹月健彦 (九大防衛研・免疫学)
- ・福山型先天性筋ジストロフィー—臨床病型の確立から遺伝子クローニングまで/福山幸夫 (東女医大(名誉)・小児科)
- ・尿道下裂に対する形成術式の開発と確立/小柳知彦 (北海道大・腎泌尿器外科)

**〈日本医師会医学研究助成費〉**

- ・杉山俊博 (秋田大・生化学)
- ・廣田誠一 (大阪大・病理病態学)
- ・成田正明 (筑波大・神経科学)
- ・大島 徹 (金沢大・法医学)
- ・小澤敬也 (自治医大・血液学)
- ・森下竜一 (大阪大・遺伝子治療学)
- ・中尾一和 (京都大・臨床病態医科学)
- ・中村秀範 (山形大・内科)
- ・三浦総一郎 (防衛大・内科)
- ・宮坂信之 (医歯大・内科)
- ・谷口英樹 (筑波大・外科)
- ・市川智彦 (千葉大・泌尿器科)
- ・小椋祐一郎 (名古屋大・眼科)
- ・市村恵一 (自治医大・耳鼻咽喉科)
- ・藤村直幸 (札幌医大・麻酔学)

**医学用語管理事業**

医学用語管理委員会では, 草間悟委員長はじめ9名の委員により, 「日本医学会医学用語辞典—英和—」第2版編集の最終校正が行われており, 近々, その編集作業が終了する。

その後, 継続して出版作業に取りかかり, 刊行は平成13(2001)年3月を目指している。

**医学賞・医学研究助成費の決定**

医学賞・医学研究助成費選考委員会が9月10日に開催され, 平成11年度を受賞者が決定した。授与式は11月1日の第52回日本医師会設立記念医学大会に際して行われる。

今年度の応募件数は医学賞29件, 医学研究助成費86件であった。本選考は, 日本医学会が日本医師会から委任されているもので, 受賞者

ㄥ  
ㄥ  
ㄥ  
ㄥ  
ㄥ  
ㄥ